

雜 錄

最近のニコライ・ハルトマン

本年四月六日プロシア學士院正會員に推されたベルリン大學教授ニコライ・ハルトマンは六月七日哲學・史學部會に於て「時間性と實體性」(Zeitlichkeit und Substantialität)と題する講演を試みた。學士院報告の傳へるところは極めて簡單で、完全な意味の把握は困難であるが、それによれば、「實在的なるものが、その一が他の外に連亘して過程の諸階層をなすことが時間性である。今に止まりながら、しかもその今が時の流に於て共に移行するのが持續である。實體といへば、ひとは常にそれを絶對的に止まるもの求めてゐた、併しさういふものは見出されなかつた。我々の知るのはただ相對的維持である。だが、それには二つの基本的なる形式がある。(一)實體的存在者の不活動、(二)超實存者の自己超越、又は自己再成である。そして有機的なるもの以上の、高次の維持は總て後の類型のものである。」

次いで同月十四日の總會に於て、「意味賦與と意味充實」(Sinngebung und Sinnerfüllung)といふ論稿を朗讀した。これは、學士院報告に、別刷としても、出ることになつてゐる。

更に同月廿八日のライプニツ記念日の公會に、就任演説を試みた。左に掲げるのは、それとエルンスト・ハイネマンの答辭との要

旨である。

私が哲學の門に入つたのはもう一世代も前のことであるが、當時は新カント派が尙哲學界を支配してゐた。この派によつて、認識論は哲學の中心問題となつてゐたが、それは直ちに異論を誘發するものであつた。新カント派の陣營からも、少壯學徒の中この挑戦に應じるものが多く、科學理論的觀念論を論駁することから新しい認識の本質觀が生れた。それは又同時に、實證主義及び當時勃興しつゝあつた現象學に對立することとなつた。二三の存在論的試論を相次いで出したが、それから一九二一年、私の最初の主著といつてよい「認識の形而上學の綱要」が生れ出た。その立場は哲學界では「實在論的」と捺印されたが、實際の主張はもつと控目なものであつた。その論旨はかうである。認識は對象の生産ではなく、又單なる思惟や判斷でもなくして、古代人が認識といふ語によつて理解したものが、即ち總ての認識以前にも存する、認識に依存することなく自存するものの把握である。この基礎に立つて、經驗の問題・先天說の問題・眞理とその基準の問題等は見直されなければならなかつた。

しかし、この新しい基礎そのものも、それだけでは不充分であつた。それには、一つの、首尾一貫せる存在の理論が必要であつた。それは、一つの根柢から築き上げられた存在論にまで進まねばならなかつた。かくして私に與へられた課題は今も尙完全に果されてはゐない。ただその比較的短い章節を發表することが出来

たのみである。範疇論の傳統的過誤を論じた「批判的存在論一般は如何にして可能であるか」(一九二四年)と「範疇的諸法則」(一九二六年)とがあるのみである。私の「倫理學」(一九二六年)の第三部は存在論の第三章をなすものである。そこに於て私は、自由問題を新しい仕方、即ち従來のやうに決定論を克服するのではなく、新しい自由概念、その是認に非決定論を要しない、自由概念を導入することによつて解かうとしたのである。

「倫理學」の内容に關していへば、それは既に道德律のカントの先天説をニーチエの價値多様性の説に結合してゐたマクス・シェーラーの刺戟によるものである。道德的價値を彼よりも一層廣汎に探究するためには、一層正確に叙述し、次に諸價値を分類し、最後に價値表の合法則性を作り出すことが必要であつた。この課題を私は現象學的方法を以て、勿論フッサルの方法に改造を加へたところもあるが、「倫理學」に於て遂行しようと企てた。この研究に當つて力強い支持を得たのは、アリストテレスの古典的なる分析である。それは、不當にも、カント以來近世哲學に於て顧みられなくなつてゐる。その結果、諸價値の體系の見取圖が出来たのであるが、それに多くの本質的なるものが缺けてゐることはいふまでもない。

倫理學と存在論との境界に、精神的世界とその歴史性の謎が解決を待つてゐる。この世界に關して、一定の結論が所謂歴史主義が起つた。しかし、かかる歸結は歴史的事象そのものよりも、寧ろ歴史的事象に就ての知識に關するものである。歴史的事象その

ものを一義的に把握せんとするならば、歴史的事象そのものに關して存在論的に問はなければならぬだらう。それへの手がかりを與へたのはヘーゲルの客觀精神の概念であつた。この概念を、ヘーゲルの如く實體化することなしに、改造し、それを、その後與へられた現象的資料に適合せしめることが必要であつた。同時に又、客觀精神を、總ての精神の領域に散在せる、精神的財としての諸客觀化(客觀化された精神)から區別し、前者に對して後者の存在の仕方を先づ規定しなければならなかつた。このテーマを取扱つたのは、第三の主著「精神的存在の問題」(一九三三年)である。この書は、精神的世界全體の統一を、その構造、その階層、その發展性格に於て、理解せんとしたものである。とはいへ、それは問題に答へるよりは、問題を提出したものであり、又完結といふよりは寧ろ發端といふべきものである。

私の見るところによれば、歴史的相對主義も、價値の相對主義、眞理の相對主義、及びそれらの變種を含めて、と同様に誤つてゐる。實證的研究が、實證主義の極端に走ることなしに、なされ得る基礎を作ることが、今日の哲學の最も緊急なる課題であると思ふ。私の今までの研究はただそれへの手がかりに過ぎない。上述の三つの主著は専ら精神哲學の領域に限局され、一般的基础を與へることは出来ない。根柢から築き上げられた存在論、それを私は計畫し、且つ公にせんとしてゐるのであるが、ただそれのみが、今日の哲學の使命を果すことが出来るのである。

君が一九〇九年、我々が共に研究してゐた杜の都マールブルクで、私講師としてはじめた大學の教職に就かれたとき、君の立場はマールブルク派の新カント主義に近かつた。併しそれはただ接近してゐたといふに止まり、君が自身の道を歩まれることは、やがてひとの感知するところであつた。鋭く世界の内奥を見抜くりが出身の君をして、學派を超越せしめたのは、君の現實性に對する感覺、世界の實在なるものの批判的認識への深き努力であつた。當時の現象學的研究は君にはたつきかけた。そして君は存在論的研究を始め、情感的なる實在基準をとり、實用主義的轉向を示しつついよいよ進展して、終に君の最近の著作「精神的存在の問題」(一九三三年)に至つた。それに於て、君はヘーゲルとの異同辨別によつて、諸精神科學の歴史哲學的、存在論的基礎を與へられてゐる。

他方その間に、君は既に一九二六年、君の認識論的研究の諸結果から出發して、「倫理學」に於て、一つの大きな體系的業績を擧げられてゐる。そしてその頂點をなすものは意志の自由の問題を取扱つた章である。君の見解はシェーラーと對立するものであるが、それに従へば高次の諸價值は低次の諸價值に基礎づけられてゐる。それ故に、低次の諸層の規定は高次のものよりも強力である。しかも、それによつて高次の諸規定の活動範圍が狭限されるのではない。そして君がそれらの中最高のもので考へたのは、自由の規定である。

君の方法論、並びに歴史哲學的、倫理學的諸業績が、精神科學

の全領域に亘つて、如何に重大なる意義を有するかは、言ふを要しない。

君は「倫理學」に於て、アリストテレスに據るところがあるが、その他でも、希臘哲學又一般に哲學史に精通せられることを示してゐる。我々は特に君の、フイヒテ、シェリンガ、ロマンティク、ヘーゲルを取扱つた「獨逸觀念論の哲學」(一九二三、二九年)に負ふものであるが、それは歴史的、精神的、相對化的なる諸聯關よりも、寧ろ主要なる諸思想家の事象的なる諸問題を理解せしめるからである。

君は「倫理學」に於て、意味深き體系的業績を擧げてゐるにもかかはらず、自らを、體系家に對して、絶えず問題を探究する思索家の中に算へられる。そして諸問題の收獲多き追求とその解決とはまさしく君の研究の中心をなすものである。眞面目なる哲學的思索家のエートスは、君の探究に於て、當代にその比を見ることが少き程にはたつき、君の本質をなす實在論的傾向は、驚く可く廣汎なる範圍に亘る哲學的問題を通じて堅く保持する學問的嚴格と誠實とに於ても現れてゐるといふことが出来るであらう。

君は周圍の世界に迷はされることなく純粹なる學究として終始し、探め措定した諸結果に向つて努力するのではなく、又他方傳習のしかし君には熟知の道に止まるのでもなく、嚴密なる、自ら得た方法を以て研究し、しかも實踐の方向に眼を閉ぢられることはない。君によつて我が學士院は、一人の眞理の探究者を、その卓越せる學識によつて、即席の輕薄なる流行哲學者よりも、無限

に多くの貢獻を祖國になす真理の探究者を待たないのである。君の長らく完結を見ない、又その本質上完結を見かねるもなき研究を、我々の間にわたつて続けられ、我々にも分ち興へられ、又我々の側からも受け取られるならば、我々は欣快に堪へないであらう。且つ、君がその豊かなる學識を以て、我が學士院の學問的なる事業にも參與し、助成されることも亦我々の確信するところである。

新刊書目

- Adelardus von Bath: Die Quaestiones naturales d. Adelardus v. Bath. Hrsg. u. unters. v. Martin Müller. (Beiträge. z. Gesch. d. Philos. u. Theol. d. M. A. s. Bd. 31, Ht. 2)
- Münster i. W.: Aschendorff, VIII, 92 S. M. 4.40
- (Baumgarten): Peters, H. Geo: Die Aesthetik Alex. Gotl. Baumgartens u. ihre Beziehungen z. Ethischen. 61 S. 2.40 M.
- Brunner, Emil: Um d. Erneuerung d. Kirche. Bern, Lpz.: Gotthelf-Vlg., 64 S. M. 1.60
- Carnap, Rudolf: Logische Syntax d. Sprache. (Schr. z. wiss. Weltanflasse. Bd. 8) Wien: Springer, XI, 274 S. M. 21.80
- : Die Aufgabe der Wissenschaftslogik. (Einheitswissenschaft, Ht. 3) M. 1.50
- (Cicero): Schäfer, M.: F. frühmittelalterliche System d. Ethik b. Cicero. (Diss.-München), XLVI, 334 S.
- Gardner-Smith, P. & Foakes-Jackson, E. J.: The expansion of the Christian Church (The Christian religion, its origin and progress 2) Camb. Univ. Press, XLII, 369 pp. 7s. 6d.
- Inge, W. R.: Liberty and natural rights. (Herbert Spencer Lecture, 1934) Oxf. Univ. Press.
- (Joel, Karl): Festschrift f. K. Joel. Zum 70. Geburtstag. Basel: Helbing & Lichtenhahn. 267 S. Fr. 6.50
- Kahl-Furtmann, G.: Das Problem d. Nicht-Kritehist. u. systemat. Unters. Bln.: Junker & Dümml. XI, 592 S. M. 18.
- Kern, Otto: Die Religion d. Griechen. Bd. 2: Die klassische Zeit. Bln.: Weidmann, etwa 320 S. Vorzugspreis M. 16, geb. M. 18.
- Kierkegaard, S.: Der Einzelne u. die Kirche. Ueber Luther u. d. Protestantismus. Ausw. K.'s Journalen. Übers. u. Vorw. v. Wfhl. Kretzeneyer. 248 S. geb. M. 5.20
- Lackmann, M.: Herr, wohin sollen wir gehen? Ein Wort eines evangel. Theologiestudenten an sein Kommilitonen. (Theol. Existenz heute, Ht. 11) München: Kaiser. M. 1.
- Lindworsky, J.: Das Seelenleben d. Menschen. E. Einf. in d. Psychol. (D. Philos., Abt. 9) Bonn: Hanstein. VI, 68 S. M. 2.20
- (Marty, A.) Landgrebe, L.: Nennfunktion u. Wortbedeu-

tung, E. Studie ü. Marys Sprachphilos. Halle: Akad. Vig.

132 S. M. 4.80

(Platon): Ritter, C.: Platonismus u. Christentum. 3 Vortr.

74 S. M. 1.75

(Vaihinger, H.): Willrodt, Stephanie: Semifikationen u.

Vollkationen in Vaihingers Philos. d. Als Ob. Mit e.

monographischen Bibliographie H. Vaihinger. (Stud. u.

Bibliogr. z. Gegenwartsphilos, 7) Lpz.: Hirzel, VIII; 193

S. M. 4.50

(Weber, Max): Mettler, Arthur: Max Weber u. d. philos.

Problematik in unser. Zeit. M. e. monographischen Bibliog-

raphie Max Weber. (Stud. u. Bibliogra. z. Gegenwartsphi-

losophie, 9) Lpz.: Hirzel. 152S. M. 4.50 (服部英次郎)

寄贈圖書

箕 克彦進講

神ながらの道

東京 岩波書店頒布
定價 金四圓五拾錢

山川 智應著

法華思想史の上の目蓮聖人

東京 新潮社刊
定價 金五圓

大江 精志郎著

世界觀學序想

東京 理想社出版部刊
定價 金壹圓貳拾錢

龍野 健次郎譯

ヴェンチヤー倫理學史要

大阪 甲文堂書店刊
定價 金壹圓八拾錢

遠藤 隆吉編修

系統的新研究綜合漢學第八卷 東京 東亞協會刊行

寄贈雜誌

九月號

文化、丁酉倫理會講演集、宗教研究、唯物論研究、學校教育、
信濃教育、奈良縣教育、社會學徒、生理學研究、哲學改造、大
東、國維、願悲、呂、湖畔の聲
Tohoku Psychological Review, Tomus 2, Fasc. 1.